



News Release

一般社団法人日本物流団体連合会
Japan Association for Logistics and Transport

〒100-0013
東京都千代田区霞が関3丁目3番3号
全日通霞が関ビル5階
TEL: 03-3593-0139
FAX: 03-3593-0138
URL: www.butsuryu.or.jp

令和7年10月24日

第27回「物流連懇談会」を開催

日本内航海運組合総連合会・栗林商船株式会社による
「内航海運の現状と今後～モーダルシフトを中心に～」と題する講演開催

（一社）日本物流団体連合会（略称：物流連）は、10月22日（水）、東京都千代田区の新海運クラブにおいて、第27回「物流連懇談会」を開催しました。この物流連懇談会は、物流業界の幅広い会員の参加を得て、会員への情報提供、会員相互の情報交換・交流のために行われているものです。今回は、日本内航海運組合総連合会 会長・栗林商船株式会社 代表取締役社長である栗林宏吉氏から「内航海運の現状と今後～モーダルシフトを中心に～」と題する講演が行われ、会員企業の代表者や幹部など66名の参加がありました。

参加者間の懇談が行われた後に、長澤・物流連会長から挨拶があり、講演が始まりました。講演では、初めに栗林社長の自己紹介の後、栗林商船の会社概要と日本内航海運組合総連合会の沿革・組織についての紹介がありました。

次に、内航海運の現状について、事業規模やシェア及び輸送貨物品目、主要品目の輸送量と輸送活動量に関しての分析が示されたうえで、災害発生時の代替輸送や内航船の種類、乗組員の構成と働き方等について、詳しく触れられました。また、内航海運業界の課題として、船舶の老朽化問題、船員不足の問題、船舶運航費用の高騰を挙げられ、それらの解決へ向けて、積極的な広報活動や各種船員確保支援、働き方改革・荷主対話のほか、カーボンニュートラルへの対応、自動運航船の商用運航の実現に向けた取り組みについての詳細な説明がなされました。

続いて、内航海運へのモーダルシフトと題して、輸送を担うRORO船とコンテナ船の紹介、RORO船の主要航路図の案内があり、2024年問題とモーダルシフトの形態、モーダルシフトが環境に与える効果等が様々な指標で披露されました。

最後に、栗林商船の取り組みと今後として、同社RORO船サービスの航路、所有するトレーラー、モーダルシフトの事例が具体的に示され、さらに海運モーダルシフトを推進するための物流事業者の受入環境整備と担い手の確保・育成、労働生産性の向上や海陸物流事業者間の協業、小口貨物の対応、フィジカルインターネットの実現の取り組みについて個別に説明がありました。加えて、荷主の行動変容促進についても言及され、約一時間に及んだ講演を終えられました。

講演後の質問についても、栗林社長から詳細かつ丁寧な回答をいただき、盛況のうちに物流連懇談会を終えることができました。

物流連は、今後も会員に対して有益な情報を提供し、会員相互間の交流の場を設定してまいります。

以 上
担当：山本



講演する栗林社長



講演会風景



懇談風景